

第2回CT認定講習会開催報告

学術常任理事 富田 博信

埼玉県放射線技師会で行っている認定技師制度は平成11年に胸部、上部消化管、乳腺の3部門でスタートしました。その後、乳腺は全国統一認定に移行し、2部門で継続して参りましたが、昨年度からはそれらにCTを加え、胸部、上部消化管、CTの3部門で認定を行っております。

今回の講習会は、平成22年11月28日（日）、平成23年1月16日（日）、1月30日（日）の3日間、終日にわたり開催され、第1回目について、多くの皆様にご参加いただきました。認定試験受験に関しても、前回から引き続き多くの皆様に受験していただきました。

結果はA認定が2名、B認定が22名合格し、昨年の試験結果と比べ格段に平均点が上がっています。これは県内のCT撮影技術の向上が数値においても現れたと思っています。

講習会の受講、認定試験の受験された皆様におかれましては並々ならぬ努力をしていただき主催者からも感謝申し上げます。



講師（敬称略）と科目

造影技術概論	第一三共株式会社	手塚 一明
物理特性講義+実習Ⅰ	北里研究所病院	小林 隆幸
埼玉放射線技師会CT認定制度概論	済生会川口総合病院	富田 博信
物理特性講義+実習Ⅱ	埼玉医科大学総合医療センター	中根 淳
	さいたま市立病院	双木 邦博
頭頸部 読影と正常解剖講義（撮影法含む）	済生会川口総合病院	富田 博信
胸部 読影と正常解剖講義（撮影法含む）	栃木がんセンター	萩原 芳広
腹部 読影と正常解剖講義（撮影法含む）	済生会川口総合病院	富田 博信
救急 読影講義（撮影法含む）	東京女子医大東医療センター	田中 功
造影技術概論特別講演	長野赤十字病院	八町 淳
造影に関する物理特性講義+実習Ⅲ	埼玉医科大学総合医療センター	中根 淳
	済生会川口総合病院	志藤 正和
3DCT造影法概論	株式会社根本杏林堂	弓場 孝治

第2回救急セミナー開催報告

学術常任理事 富田 博信

平成23年1月22日（土）に救急セミナーが下記のプログラムにて開催されました。参加人数は40名。比較的若い技師の参加が多くみられ、これから日当直業務に入る方や、入って間もない方にとっては非常に不安に思う点が多く、関心が高いことが伺われました。

感染対策については、消毒法など診療放射線技師にとっておろそかになりがちな事であり、実演も含めた内容で興味深く、日頃我々が行っている方法を見直す良い機会になったと思われまます。CTについては、頭部と体幹部に分けて少人数のグループ形式で行い、概要を講義した後、スクリーン上で読影をしてもらう受講者主体型での講習であり、救急業務においてすぐにでも役立つ内容でした。

一般撮影法については、複雑に撮影角度が指定されている撮影法に対しても再現よく描出できるように工夫するポイントや、体動が困難な場合の撮影法など、救急において一番求められる迅速で正確な撮影に直結する内容であり、実践的な知識を得ることができたと思われまます。

今後はMRIなど他のモダリティについても実践的な講義を盛り込んだ企画もしていきたいと思ひまますので、次回もたくさんの参加をお待ちしてあります。次回の案内は決まり次第、本会会誌、Webにて広報いたします。

プログラム（敬称略）

12：30～	受付		
13：00～14：00	「医療従事者として必要な感染対策の知識」	済生会川口総合病院 感染管理認定看護師感染管理師長	千葉 礼子
14：10～15：10	「夜間休日におけるCT検査」	埼玉医科大学総合医療センター 済生会川口総合病院	中根 淳 城處 洋輔
15：20～16：20	「救急でも使える簡単一般撮影法」	防衛医科大学校病院	小池 正行
16：20～16：40	質疑応答		

ヘルシー・フロンティア埼玉県民会議 総会・健康づくり講演会参加報告

公益委員会 星野 弘

平成23年1月18日（火）、さいたま市浦和区の埼玉県民健康センターにて開催されたヘルシー・フロンティア埼玉県民会議総会・健康づくり講演会に本会より中村常任理事と私の2人で参加してきました。

ヘルシー・フロンティア埼玉県民会議は、埼玉県知事を会長に、平成13年度より「すこやか彩の国21プラン」の一環として進められてきました。すべての県民がいきいきとすこやかに暮らせる、活力ある社会の実現をめざし、「ヘルシー・フロンティア埼玉県民活動」を展開することで、県民一人ひとりの主体的な健康づくりを支援し、生涯を通じた健康づくりを進めることを目的としています。参加団体は県内の民間団体や企業、市町村健康・体力づくり推進協議会、行政機関等、334団体です。

今回、私たち社団法人埼玉県放射線技師会はパネル展示団体（9団体）の中の一団体として参加してまいりました。県民の皆様には私たち診療放射線技師の仕事内容（検査説明など）や、地域での公益活動、また、健康診断を定期的を受診することの重要性をパネルや小冊子を使用してアピールしてまいりました。

今回は3部構成でおこなわれ、第1部の総会では埼玉県保健医療部健康づくり支援課担当者より、これまでの会の進捗状況やこれからの取り組みなどについて報告がありました。第2部では事例発表会として、「健康づくりのまち・鳩山」鳩山町健康福祉課保健センターの宮山裕子氏、「市民自らが取り組む健康づくり活動」桶川市健康づくり市民会議会長の黒沼景子氏、両氏それぞれの市における健康づくりに対するこれまでの取り組み方について発表がありました。第3部は、「計るだけダイエット」NHK科学・環境番組部専任ディレクター北折一氏の講演がおこなわれました。北折氏はNHK『ためしてガッテン』の番組を構成しているディレクターで、「ガッテン流！若返りダイエット2011～こんなにラクに健康になっちゃっていいの!？」と題してユニークかつ分かりやすいダイエットと健康についてお話をして下さいました。「おいしい！」と「メタボ脱出」を両立させるという、ムシのいい話を実現させるための脳科学のお話に始まり、最後は幸せな人生を送るためにはどうしたらよいかカンタンな方法は？その答えは、人類最強の魔法『笑う』のお話で締めくくられました。講演後は会場の皆様も『笑う』とともに満足された表情で帰られていました。

最後になりますが、私たち社団法人埼玉県放射線技師会はこれからも公益法人として公益業務を拡充するとともに、県民の皆様が安心して放射線検査を受けられる様にこのような会に積極的に参加し、啓発していきたいと考えます。



(会場の様子)



(パネル展示フロアにて)

(社)日本放射線技術学会第57回関東部会研究発表大会 本会との合同シンポジウムについての報告

副会長 堀江 好一

平成23年2月5日(土)・6日(日)、大宮ソニックシティにて(社)日本放射線技術学会第57回関東部会研究発表大会が行われ、その中で初の試みとして本会との合同シンポジウムが行われた。

昨年、「せっかく大宮で開催するなら、一緒に何かやりませんか」と大会の実行委員会へ本会からお願いしたことがきっかけとなり、今回それが実現されたかたちだ。

シンポジウムは「医療における画像連携～半切フィルムからCD-Rへ～」というテーマでランチョン形式にて行われた。座長は、本会から私、関東部会から臼井淳之氏(横浜市立大学病院)の2名。シンポジストは本会を代表して小池克美氏(さいたま赤十字病院)、実行委員会から角田喜彦氏(JA厚生連 熊谷総合病院)、日本放射線技術学会の医療情報分科会長である奥田保男氏(岡崎市民病院)の3名である。

近年、医療機関においてフィルムレス化が益々進んでいるが、それに伴い医療機関間における画像情報の受け渡しも半切フィルムからCD-Rに変わってきている。ところが、受け取ったCD-Rの画像を閲覧することができないという問題が多く現場で起きていることが次第に明らかになってきた。このシンポジウムでは、この「現状」「原因」「対策」についてご参加下さった方々に情報を持ち帰ってもらい、良好な地域連携の構築に役立てていただくのが目的である。

角田氏、小池氏が、それぞれ自施設における現状や原因について発表した後に、この分野に精通されている奥田氏が対策について発表した。

角田氏、小池氏の発表により、患者が持参したCD-Rを院内のPACSに読み込んだり、逆にCD-Rに書き出したりする件数が想像以上に増加してきており、せめてスムーズにPACSに読み込めないと作業者は1枚のCD-Rのために多くの時間を割かなければならないという現状を知った。また、他施設から救急で転送された患者と共にCD-Rを持ち込まれる場合もあり、当直技師全員に画像を取り込む訓練を行っている施設もあること。画像が読み込めない原因には、DICOM違反やパケットライトの使用、JPEGでの書き込み等、様々な原因があることも解った。

続いて奥田氏は、様々な例を紹介しながら日本医学放射線学会・日本放射線技術学会・日本画像医療システム工業会・保健福祉医療情報システム工業会・日本IHE協会・日本医療情報学会など6団体による合意事項(日本放射線技師会も合意を表明しており、次の版では7団体合意事項となる見込みである)「患者に渡す医用画像媒体についての合意事項」について解説した。

その後、読み込めなかった場合の対処や医師への説明、患者の個人情報に関する問題等について座長とシンポジストを中心としてディスカッションが行われた。

ごく一般的な放射線技師は、シンポジストが語ったトラブルや担当者の苦労もあまり理解できていないであろうし、ましてや合意事項があること自体知らないであろう。(少なくとも私は知らなかった)

トラブルを少なくし、地域連携をさらに向上させるために最低限必要なことは、合意事項に違反したCD-Rを「焼かない」「患者に渡さない」ことであることは明白だ。紙面の都合で具体的なことはここでは書けないが、この問題における放射線技師会の役割は、我々のネットワークを活かして小規模施設の会員

にまで合意事項について知ってもらい、それを守ってもらうことだと考える。また、患者から受け取ったCD-Rが読めなかったら紹介元施設の技師に気軽に連絡して「お宅のCD-Rは読めない」ことを伝え合う関係であって欲しい。

今回のシンポジウムは技術学会と技師会それぞれの役割を考える上でも、非常に有意義であったと考える。今後、「患者に渡す医用画像媒体についての合意事項」(<http://www.jsrt.or.jp/97mi/>)についても何らかの方法で会員の皆様にお知らせしたいと考えている。

最後に、本企画の実現にご理解とご協力をいただいた諸澄邦彦大会長、柳田 智実行委員長はじめ関係諸氏に深く感謝する。



ランチョンセミナー：埼玉県放射線技師会合同シンポジウム
「医療における画像連携～半切フィルムからCD-Rへ～」
は盛況の中、行われました。